

高速鉄道 3 号線（横浜市営地下鉄ブルーライン）の延伸
「あざみ野～新百合ヶ丘」に関する説明会における主な質問と回答

■ 事業の整備効果や採算性に関すること

Q：どのような整備効果があるのか

A： 広域的な鉄道ネットワークの形成や、新幹線へのアクセス機能の強化、移動時間の短縮効果、沿線地域の公共交通ネットワークの充実等を期待しています。

Q：事業採算性は問題ないのか

A： 概略ルート 3 案について、概算事業費を算出し、費用便益比（B/C）や採算面での事業の成立性（累積損益欠損解消年等）を確認しており、延伸区間の費用対効果、事業採算性が認められると考えています。

■ 概略ルート・駅位置の考え方や駅周辺まちづくりに関すること

Q：なぜ、東側ルートを有力ルート案と考えているのか

A： 川崎市側の中間駅の役割として、北部地域の公共交通ネットワークの充実に加え、より広い地域から多くの人々が日常生活を支える身近な駅として利用できること、駅周辺の活性化等に資することが重要と考えています。

地域交通との連携などによる相乗効果や、既存駅とのバランスを踏まえた駅の配置等を視点として比較検討・評価を行った結果、より整備効果の高い東側ルートが望ましいと考えています。

Q：新駅周辺のまちづくりは検討しているのか

A： 今後、具体的な駅位置の検討にあわせて、地域の状況や周辺の環境にも配慮しながら、駅周辺まちづくりの検討を進めていきます。

Q：路線バスは中央ルートでも本数が多いと思うが、それでも東側ルートが有力なのか

A： バスの本数等については、主要な道路における主なバス停の本数等を示しているもので、中央ルートについては、3 方面、100 本／日を踏まえ、評価しています。なお、近隣のバス停を含めた場合には、7 方面、400 本／日となりますが、東側ルートを有力とする評価の考え方は変わるものではありません。

■ 今後のスケジュールに関すること

Q：工事着手の時期や令和 12 年開業の見通しは

A： 今後、都市計画や環境影響評価手続、国や関係者との協議・調整等が必要となるため、現時点においては、工事着手の時期は未定です。交通政策審議会答申の目標年次である令和 12 年の開業を目指し、早期実現に向けて取り組んでいきます。

■ 地下鉄工事や住環境等への影響に関すること

Q：地下鉄の工事中や開業後は、周辺環境にどのような影響があるのか

A： 今後、環境影響評価手続の中で、地下鉄の走行による振動や工事中の騒音など、周辺環境への影響について、調査・予測・評価を行い、お示しします。

Q：地下鉄のトンネルの深さはどのくらいか

A： 概略ルート3案を検討した中では、トンネルまでの深さは概ね 15～30mを想定しています。今後、具体的なルート・駅位置を定めていく中で、詳細について検討していきます。

Q：リニア中央新幹線と交差すると思うが、延伸工事に影響が生じることはないのか

A： 概略ルート3案は、リニア中央新幹線の計画位置を踏まえたトンネルの計画としております。今後、具体的なルート・駅位置を定めていく中で、JR東海と協議を行っていきます。

■ 運行計画や既存バス路線の再編に関すること

Q：地下鉄の延伸後、運賃や運行計画はどうなるのか

A： 延伸開業後の運賃や、列車の運転間隔、快速運転の有無などの運行計画は、開業までに検討し、決定していきます。

Q：小田急線と相互直通運転の計画はあるのか

A： 小田急線とブルーラインでは、線路の幅や電気の供給方法など、鉄道施設の規格が異なるため、相互直通運転を行う計画はありません。

Q：地下鉄延伸によって沿線のバス路線はどうなるのか

A： 延伸後のバス路線については、現時点では未定ですが、バス事業者と話し合いを進めていきます。

■ 新百合ヶ丘駅の乗り換えに関すること

Q：新百合ヶ丘駅南口のどの辺りに駅ができるのか

A： 新駅の具体的な位置については、乗り換え利便性や、駅周辺のまちづくりなどを考慮しながら、検討していきます。